

三五グループ

第1次環境取組みプラン(環境行動計画) (～2022年度)

分類	「2050環境ビジョン」5つのチャレンジ	取組み項目	具体的な実施事項	2022年度目標値	
環境貢献製品の市場拡大と創出	1.ライフサイクルCO2 ミニマム化にチャレンジ	材料調達から設計、製造、使用、廃棄・リサイクルまでのトータルで環境に配慮した事業の推進		社外環境推進賞受賞	
	2.新車CO2 ミニマム化 にチャレンジ	お客様の環境価値に貢献する、 高付加価値な製品・技術の開発	①トップクラスの燃費性能に 貢献する製品開発 ②次世代自動車に対応した 製品開発の推進	製品軽量化 排気熱利用新製品の開発・量産化 次世代自動車の熱マネジメント製品開発・量産化	各開発目標達成100% 新規アイテム2件以上 新規アイテム1件以上
事業活動による環境負荷の低減	3.生産活動の 排出物 ミニマム化 にチャレンジ	つくり方の改革を通じ、 生産活動の排出物を 削減するものづくり	①低CO2革新生産技術開発の推進	新規導入設備のCO2排出量削減を目標にした 生産技術開発の推進 【主な削減アイテム】 ・工程集約/削減 ・工法変更(新工法採用) ・生産性向上 ・設備型治具のシンプル・スリム・コンパクト化 ・溶接・加工条件の最適化(低減) ・ロボット・設備の可働率向上 ・物流・レイアウトの最適化	CO2排出削減計画量 ▲40%(BM比) 注:目標値は、BM年(2013年 頃)当時のつくり方に対して 削減率
			②低排出物生産技術開発の推進	新規導入設備の廃棄物削減を目標にした 生産技術開発の推進 【主な削減アイテム】 ・加工油低減/洗浄液低減 ・油圧シリンダから電気/サーボ化による作動油低減	廃棄物削減計画量 ▲30%(BM比) 注:目標値は、BM年(2013年 頃)当時のつくり方に対して 削減率
			③日常生産活動(号ライン、インフラ)における CO2排出量の削減	エネルギー使用時のムダ徹底排除 ▶ エア漏れ撲滅活動 ▶ 非稼働時の設備電源オフ活動	昼時間帯電力使用 (対ピーク電力) 50%未満 (64% 19年4月)
				工程、製品単位でのエネルギー原単位の把握と 削減活動の推進	品目別原単位 ▲5%
			④再生可能エネルギーの活用推進	経済性、CO2低減効果に合わせた再生可能エネルギー の導入エリア拡大検討	常にトップランナーの導入
			⑤日常生産活動における 廃棄物排出量の削減	新規導入時の廃棄物 排出予測と実績把握 含油排水 低減機器の導入 廃塩酸処理装置の導入	含油排水 ▲20%減 廃塩酸 ▲20%減 (2016年比)
			⑥生産工程における 水使用量、排出量の削減	各国、各地域の水事情を考慮した水使用量削減活動の検討 水資源の有効活用 貯水雨水の使用、節水の推進	水使用量▲3%低減 (2017年比)
			⑦環境負荷物質の管理、削減	製品含有化学物質の管理の強化	禁止物質 使用ゼロ
自然環境の保全	4.自然共生社会 の構築にチャレンジ	人と自然が共生する社会の実現に向けた 生物多様性の保全や、自然環境 の保護活動の推進	①35万本に向けた森づくり活動	各事業体での植樹の推進支援、指導 いのちの森づくり2020への協力 行政と連携した植樹の検討 東北被災地向けの苗木育成 (2020年5月が最終)	・累計植樹 312,037本 ・CO2吸収・固定量 433 t (累計) ・2020年5月出荷予定1000本 ・CO2吸収・固定量 0.21 t
			②社内ビオトープ整備による 自然環境保全	EC035ビオトープ、田んぼ整備による自然環境保全の推進 八和田山ビオトープ 整備による自然環境保全の推進	維持管理計画の推進100%
			③社外と連携した環境保全活動	オールトヨタ自然共生WGの活動参画による 自然環境保全の推進 「自然と共生する工場」に向けた八和田山工場ビオトープ の生態系保全	オールトヨタ自然共生WGの 計画推進100% (計画立案2021年予定)
マネジメント	5.環境マネジメント システムの構築 にチャレンジ	連結環境マネジメント体制を構築し、 環境リスクを管理し、予防と 継続的改善(運営・管理の強化)	①各国・各地域の環境法令順守と 環境事故の未然防止活動	環境法令の順守 環境事故の未然防止 環境を意識できる人づくり	異常・苦情ゼロ
			②三五グループ環境活動定期監査	環境活動の実施状況の実態調査、効果確認、改善情報の 共有、横展(国内外グループ各工場の活動を横串確認)	1回/年 各事業体巡回 グローバル環境会議の開催
			③ビジネスパートナーと連携した 環境活動の推進	全てのサプライヤーにグリーン調達を推進 ・環境マネジメントシステムの構築と運用を要請 ・材料、部品に含まれる環境負荷物質の管理、削減	1回/年 サプライヤー説明会実施
			④環境情報の積極的開示と コミュニケーションの充実	環境関連情報提供の一層の充実 ▶ HP最新化 ▶ 三五グループレポートの継続発行 官公庁、地域住民とのコミュニケーション 積極的な情報開示による外部評価と企業イメージの向上	都度 植樹レポート掲載 1回/年 グループレポート発行 CDPサプライチェーンプログラム: 「Bランク」